

参加申込書返信先ファックス番号 **03.5562.4423**

下記にご記入の上、8月22日[金] までにファクシミリにてご返送ください。
ご出席申し込みに対しては、折り返し確認書をお送り致します。
- 定員を越えた場合、お申込を受けられない場合がございます。ご了承ください。

所属（ふりがな）
所属部署・職名等
氏名（ふりがな）
住所
電話番号 ファックス番号
e-mail アドレス

Question 1
参加するものにチェックしてください。

- 8月29日[金]**
☐ **13:45-14:45 基調講演** | 私の“映画館”～「台北之家」のことなど」（仮）
☐ **14:50-18:10 プレゼンテーションとディスカッション** | 都市に映画の文脈（コンテキスト）を育む

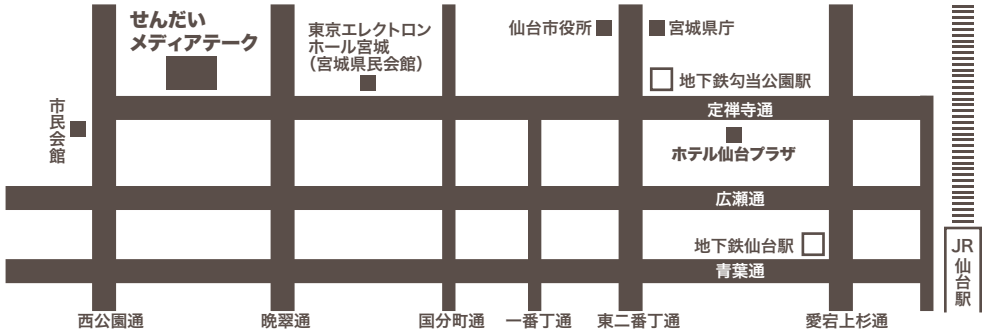
- 8月30日[土]**
[午前の部]
☐ **10:00-12:00 分科会 1** | シネマテーク・プロジェクト部会
☐ **10:00-12:00 分科会 2** | シネマ・シンジケート部会
☐ **10:00-12:00 分科会 3** | 映画祭 / シネクラブ部会
- 分科会 **1** ～ **3** のうち、いずれかひとつをお選びください。
[午後の部]
☐ **13:00-15:00 分科会 4** | 映像学芸員－資格の新設とその目的
☐ **13:00-15:00 分科会 5** | 子どものための映画映像教育
- 分科会 **4** ～ **5** のうち、いずれかひとつをお選びください。

Question 2
レセプション参加の有無をお答えください。 **8月29日[金]18時30分**～
☐ 参加する ☐ 参加しない

Question 3
この会議で特に取り上げてほしいことなどがございましたら、お書きください。

せんだいメディアテーク TEL.022-713-4483 <http://www.smt.jp/>

交通案内
地 下 鉄：仙台駅から泉中央行きで3分、勾当台公園駅下車。「公園2」出口から徒歩6分（約450メートル）
バ ス：仙台市営バス 仙台駅前 -29番（荘内銀行前）のりばから「定禅寺通市役所前経由交通局大学病院」行き（系統番号J410）で約10分、メディアテーク前下車
徒 歩：仙台駅より約20分（約1.8キロメートル）



The National Conference of Community Cinemas 2008 in Sendai

全国コミュニティシネマ会議2008 in 仙台

2008年8月29日[金], 8月30日[土]

■会場
せんだいメディアテーク
宮城県仙台市青葉区春日町 2-1 TEL.022-713-4483
<http://www.smt.jp/>

■参加費
会議 | 2,000 円

- 8月29日、30日共に参加可。一部のみの参加も同じ。
- 仙台市在住の団体・人は会議のみ無料（せんだいメディアテークHP（<http://www.smt.jp/>）参照）。

レセプション | 3,000 円
映画上映 | 1 作品 1,000 円

主催：仙台市/財団法人仙台市市民文化事業団/コミュニティシネマ支援センター/財団法人国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)
支援：文化庁 平成20年度文化庁芸術団体人材育成支援事業 
後援：東北経済産業局

申込み締め切り8月22日[金]

参加を希望される方は、裏面の申込用紙にご記入の上、
8月22日[金]までにファクシミリ (FAX.03-5562-4423) にてご送付ください。
ご出席申し込みに対しては、折り返し確認書をお送り致します。
- 内容(出演者等)は変更になる場合がございます。ご了承ください。
- 定員を越えた場合、お申込を受けられない場合がございます。ご了承ください。

お問い合わせ
コミュニティシネマ支援センター
tel.03-5562-9574 fax.03-5562-4423 <http://www.jc3.jp>

“ 都市に映画の文脈(コンテキスト)を育む ”

映画文化の豊かさとは、具体的にはどんなことなのでしょう。
街なかには旬な映画や懐かしの映画を上映する映画館があって、
郊外には多スクリーンのシネコンがある。
時に難解な作品も交えながら
粛々と映画史的なプログラミングをするシネマテークもあり、
これに加えて個性を主張する映画祭もある。
それぞれが違うことをやっているのだけれど、
そのことが映像文化を豊かにし、映画の作り手たちも登場し、
彼らをサポートするフィルムコミッションがある。

今回の開催地となる仙台は、人口 100 万人を越える大都市です。
ここには、約 40 スクリーンの映画館があり、
アート系の映画を上映するミニシアターも、
定期的に上映を行うシネマテークもあります。
映画祭もフィルムコミッションもある。
豊かな映画文化を構成する要素は何もかも揃っています。
けれど、何かが足りない、“豊かさ”を実感することができない、
そんな声も聞かれます。
映画文化、映画環境の豊かさはどこから生まれるのでしょうか。
豊かな地域づくりためには、どのような視点が必要なのでしょうか。
今回の会議では、“映画文化をめぐる文脈(コンテキスト)”をキーワードに、
映画文化の豊かさについて考えます。

基調講演には、ホウ・シャオシェン監督（『悲情城市』『フラワーズ・オブ・シャンハイ』『珈琲時光』『百年恋歌』『レッド・バルーン』など）を迎え、監督自身の“映画館”についてお話ししていただきます。

「全国コミュニティシネマ会議」は、
さまざまな場で“映画を見せること”を行っている人々の情報交換と研究討議の場として、
1996 年から毎年開催されているものです。
主に映画関係者、公共ホール・美術館・図書館の映像担当者、自治体の文化事業担当者、シネクラブの主催者、
ミニシアターを中心とした興行関係者、自主上映団体、独立系配給会社等々が集まります。
映画の上映に興味のある方ならどなたでも自由にご参加いただけます。

プログラム
※出演者等は変更になる場合がございます。ご了承ください。

1st.day 8月29 〔金〕	
---	--

会場：1 階オープンスクエア ■13:00-13:10　主催者挨拶 ■13:10-13:40　コミュニティシネマ支援センター活動報告（シネマ・シンジケート、シネマテーク・プロジェクト報告） ■13:45-14:45　基調講演 「私の“映画館”～「台北之家」のことなど」^{（仮）} ホウ・シャオシェン　〔映画監督〕	
---	--

1980年の監督デビュー以来、数々の映画を作り続けてきたホウ・シャオシェン監督。日本でもすべての作品が公開されている、世界でも最も重要な映画監督のひとりです。「台北之家」(Taipei Film House)は、ホウ・シャオシェン監督が台北市政府と協力して、市内の旧アメリカ大使館を改装してオープンしたミニシアターを中心とした文化施設、台湾映画振興の拠点ともいうべき“映画館”です。書店、カフェ、ラウンジバーなどを併設する台北之家は、いまでは台北市民はもちろん、日本の観光客も訪れる観光スポットにもなっています。オムニバス映画『それぞれのシネマ』で、自らの映画館体験を映像化した監督に、映画館についてお話ししていただきます。

ホウ・シャオシェン　侯孝賢 1947年中国広東省に生まれる。1　歳で家族とともに台湾へ移住、高校卒業後、兵役を経て国立芸術専科映画演劇科を卒業。スクリプター、照明係、脚本家などを経て、1980年『ステキな彼女』で監督デビュー。1983年『坊やの人形』（オムニバス第一話）が高い評価を得、台湾ニューウェイヴの幕開けを告げる1本とされた。『童年往時　時の流れ』、『恋恋風塵』等で国際的に注目され、1989年『悲情城市』がベネチア国際映画祭でグランプリを受賞。その後も『好男好女』（95）、『フラワーズ・オブ・シャンハイ』（98）、『珈琲時光』（03）、『百年恋歌』（05）といった作品を発表、世界の映画ファンの注目を集めている。この7月、最新作『レッド・バルーン』（07）が公開される。	
---	--

■14:50-18:10　プレゼンテーションとディスカッション 「都市に映画の文脈（コンテキスト）を育む」 街中にある古いレンガ倉庫を、映画館を中心とした新しい文化ゾーンに再生するプラン、高知県で上映活動を行う公共文化施設、シネクラブ、ギャラリーなどがネットワークしてできた「シネマの食堂」企画、仙台市で展開される様々な映像に関する事業、そして街なかの既存映画館を地域の“コミュニティシネマ”として再生させるためのプラン、地域の中で有機的なつながりをもって展開されている映画事業、映画の文脈をつくらうとする新たな試みなどを紹介、地域の映画環境の豊かさについて考えます。	
---	--

プレゼンテーション　14:50～16:10 [1]「朝市と映画館　八戸、弘前における中心市街再生のための映画、食、空間、デザイン計画」 立木祥一郎　〔ieco LLC 代表〕 [2]「地域の既存映画館再生プランー併設施設で地域と繋がる」 堀口徹　〔東北大学大学院都市・建築学専攻助教〕	
---	--

2nd.day 8月30 〔土〕	
---	--

会場：7 階スタジオシアター、会議室、スタジオb ■10:00-12:00　分科会　〔午前の部〕 午前中の分科会は「シネマテーク・プロジェクト」「シネマ・シンジケート」「映画祭 / シネクラブ」という3つの部会に分かれています。分科会ではパネリストの報告、コメントを皮切りに、自由にディスカッションを行います。	
--	--

[1]　シネマテーク・プロジェクト部会 「シネマテーク・プロジェクト」は、映画上映のための専門的な施設をもつ公共施設がネットワークをつくり、共同で企画を実現しようというプロジェクトです。今年度は「日仏交流150周年記念　フランス映画の秘宝」^{（仮）}を巡回します。来年度以降プロジェクトをどう展開していくか、さらに、現在、公共の映画専門施設が置かれている状況、その問題点についても話し合います。	
--	--

パネリスト 松本正道　〔アテネ・フランセ文化センター主任 / コミュニティシネマ支援センター運営委員長〕 藤田直義　〔高知県立美術館館長〕 村山匡一郎　〔映画評論家〕 岡島尚志　〔東京国立近代美術館フィルムセンター主幹〕 小川直人 ほか	
---	--

[2]　シネマ・シンジケート部会 地域のミニシアターや既存館がチェーンを組み、街なかに映画館を残し、多様な映画がつくれ、みることができる環境をつくっていかうという「シネマ・シンジケート」。第1回作品も決定（『コドモのコードモ』萩生田宏治監督）し、共通の　WEB　サイトやフリーペーパーの制作も始まっています。製作者をゲストに迎え、「シネマ・シンジケート」の可能性、今後の展望を話し合います	
--	--

パネリスト 堀越謙三 長澤裕二　〔（株）フォーラム　マルチプレックスシアターズ代表〕 茂木正男　〔シネマテークたかさき代表〕 是枝裕和　〔映画監督〕※予定 定井勇二　〔ビターズ・エンド代表〕 田井肇　〔大分シネマ5代表〕 ほか	
---	--

[3] 映画祭 / シネクラブ部会 映画館やシネマテークといった恒常的な上映活動と同様、映画祭やシネクラブ（自主上映）による上映も、地域の映画文化を豊かにする重要な要素です。大規模な国際映画祭から1本の作品を上映する自主上映まで、その多様なあり方を紹介します。これから映画の上映を始めたい人にもおすすめの分科会です。	
--	--

パネリスト 山口卓夫　〔仙台短篇映画祭実行委員長〕 宮崎善文　〔NPO コミュニティシネマ松本 CINEMA セレクト理事〕 信田英司+田辺高英 高橋卓也　〔山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局長〕 ほか 12:00-13:00　昼食休憩	
--	--

会場：7 階スタジオシアター ■15:30-　映画上映 15:30～17:30（予定） 「^{ピニアイ}乗愛」〔コミュニティシネマ賞受賞作品〕 監督 馮艶（フォン・イェン） 〔中国 / 2007 / 114 分　山形国際ドキュメンタリー映画祭小川紳介賞受賞〕 現在建設中の三峡ダムが完成することによって移住させられる113万人の多くは農民。そのひとり、気概あふれる乗愛の7年間にカメラが寄り添う。移住を推し進めようとする役人と烈しく渡り合う姿とは対照的に、時に土を耕しながら時にろうそくの灯にともされながら語る不安、そして家族や結婚について話す時に見せる繊細な横顔。乗愛の心の機微を監督は粘り強く見つめ、可憐な素顔を引き出し、そこに残ろうと彼女を駆り立てる土地に対する慈しみを掬いだす。 ※馮艶監督舞台挨拶あり。	協力企画 東北経済産業局セミナー 8月30日（土）14:00～17:00 せんだいメディアテーク 1 階オープンスクエア 参加無料 主催・お問い合わせ：東北経済産業局 Tel.022-263-1194
---	--

17:50～18:50（予定） 「シャーリーの転落人生」〔仙台短篇映画祭より〕	
---	--

監督・脚本 富永昌敬 〔日本 / 2008 / 60 分〕 『パピリオン山椒魚』で独特なユーモアとセンスを見せた富永昌敬監督が、仙台短篇映画祭ほか有志とともに制作した作品。宮城県塩竈市の浦戸諸島にて撮影。同監督の連作シリーズ第4弾にて、別名『シャーリー・テンプル・ジャポン・パート 4』。選挙前夜のとある離島。ひとりの女の来訪をきっかけに、なすすべなく飛び火してゆく善男善女の物語。	
---	--

19:10～21:10（予定） シネマテーク・プロジェクト試行企画 「日仏交流 150 周年記念　フランス映画の秘宝」^{（仮）} より1作品をプレミア上映 上映作品は未定です。決定次第、HP 等にてお知らせいたします。	
--	--

The National Conference of Community Cinemas 2008 in Sendai

全国コミュニティシネマ会議 2008 in 仙台